

「璃久とアトピー」

璃久の湿疹は生後 1 ヶ月頃からポツポツ出始めた。長男の例もあり、乳児湿疹と思い込んでいたので、そのまま過ごしていたら治るどころかどんどんひどくなって、耳の付け根から汁が出だした。

これは大変と小児科へ行くと「乳児湿疹です。でも早く治してあげたいから、きつい薬だけステロイドを出します。」と 3 日間、入浴後に塗るように言われた。それでも治りが悪く、市立病院の皮膚科を紹介され、璃久を連れて行った。たいした診察もなく、石鹸とガーゼを変えるように言われ、痒みを抑える飲み薬をもらった。結局意味のない診察という感じだった。良い先生と紹介されたが、何故か信頼できないと思い、一度でやめてしまった。璃久の湿疹はますますひどくなるばかりで一向に治る気配が見えないので、今度は母の勤める皮膚科院へ行くことにした。この頃の璃久の顔は本当にひどくて、顔中汁まみれの赤ら顔で頭まで湿疹ができ、痒さのあまり髪まで掻き篋り、夜はほとんど眠れない日々が続いていた。

先生は璃久の顔を見るなり「アトピーです」と一言。ものすごくショックだった。家族にもアトピーの者はいなかったので、「何でこの子が？」って思った。とりあえずステロイドを朝・夕 5 日間塗るように言われた。それと私は母乳を飲ませていたので食事制限することになった。驚いたことにステロイドを塗ると 3、4 日で湿疹は消えツルツル肌になってきた。でも額は少し残っていて完璧には消えなかった。5 日後、診察に行くと、先生は「これはかなりきついアトピーですね。普通ステロイドを使うと肌はゼロの状態に戻るはずなのに額に残っている。今、ステロイドをやめると 8 割前の状態に戻りましょう。ハイハイするようになれば床に擦れるところ全部に湿疹ができるでしょう。」と、全身湿疹だらけの幼児の写真を見せられた。璃久がこうなると思うとかわいそうだし、この先どうなるのか不安で一杯になった。この時、ステロイドに関して無知だったので「今ステロイドをやめるわけにはいかない。アトピーと上手に付き合っていくしかない。」との言葉にただうなずくだけだった。そんな時、友人からステロイドの怖さを聞き、松本医院を紹介され、ここしかないとの思いで璃久を連れてきた。(平成 14 年 2 月 23 日)

松本先生は璃久を見て私達に「必ずアトピーは治ります。私が治してあげるから。」と軽い口調で私達が一番聞きたかった言葉をサラッと一言してくれた。その瞬間、今までの不安が嘘みたいに吹っ飛んだ。今までの璃久の顔を見るたびに涙が出る毎日だったのに、それがこの湿疹は璃久がアトピーと闘った痕とわかると、いくら黄汁と血が出ようが「治るから頑張る」と思えるようになった。

璃久のアトピー治療は、とにかく薬湯に少しでも長く入れ、何度も何度も傷口に軟膏を擦り込んだ。はじめの 1、2 ヶ月は黄汁と血が出続け、泣くと汁が溢れ出すという感じで回復の兆しは見えなかった。またこの頃は一人放っておくと顔・頭と掻き篋り、寝返りしては床に顔を擦りつけ、何とかして掻こうと必死になっている姿がとてかわいそうだった。

一進一退しながら、遂に 3、4 ヶ月目にして額の湿疹は消え、頬の赤みも消え、夜も熟睡

できるようになった。回復し始めるとその回復速度は速く、5ヶ月目過ぎた今では、湿疹は完全に消え、本当にアトピーだったの？と思えるほどになった。最初、本当にこれで治るのかな？と疑問に思った時期もあったけど、診察に行く度に先生の「治るからね」の一言に励まされ、そしてこの一言を信じて頑張れた。今思えば私達が松本医院にたどりついたことは偶然かもしれないが、最後まで先生を信じて本当に良かった。松本先生、本当に有難うございました。

平成14年8月1日

椿香苗